

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第173号

寺社の風景

修廣寺の「寅薬師」

修廣寺 26 世住職 菅原 節 生 せつ しょう

片平の禅寺、夏菟山修廣寺の本尊は釈迦如来だが、その前にある厨子の中には薬師如来が安置されている。ところが、普段は扉が閉まったままで、そのお姿を直接拝むことはできない。当山では十二年に一度、寅年の秋の限られた日のみ開扉されることになっている。

この御像の制作年代は定かではないが、寺では行基作と伝えられている。厨子と台座は比較的新しい物のようだが、ご本体の座像は、見るからに年を経ているように感じられる、真っ黒な仏様である。

このお厨子の外側には脇侍として金色の日光菩薩がっこうと月光菩薩が安置され、さらにその周りには、地味ではあるが色とりどりの十二神将がまつられている。

ところで、薬師如来とはそもそもどのような仏様なのであろうか。

bhaisajya-guru-vaidurya-prabha-tathagata が、薬師如来の梵名であるという。発音を片仮名で、意味を()内に表してみると、ブハイシャジャ(薬)-グル(師)-ヴァイドウーリヤ(瑠璃)-プラブハ(光)-ターガタ(如来)となるのである。つまり、梵名を直訳すると「薬師瑠璃光如来」となるわけである。日本ではこの他に「大医王仏」という言い方も広く知られているが、「薬師瑠璃光如来」がより一般的であろう。

ご承知のように、「瑠璃」とは美しい青色の中に金色の点がちりばめられた鉱石であるが、あたかもそのような美しい世界におられ、お薬師様の功德が瑠璃の光の如く燦然と輝くので、この呼び名が定着したのだと思われる。「阿弥陀如来」という仏様は「西方の極楽浄土」におられると言われるが、これに対し、薬師如来は「東方の瑠璃光浄土」におられると言われている。

阿弥陀如来は、もと菩薩として修行されている間に四十八の大願を誓われ、それらが全て成就せられて如来となられた、といわれるが、薬師如来も同様に、もと菩薩として修行されている間に、十二の大願を発せられ、悉く成就せられて如来となられたといわれている。では、その十二の大願とは、どのようなものだったのか、いくつか紹介してみよう。初めに「光明普照の願」。自身の光明が燦然と輝き、限りなき世界の隅々までも普く照らすという願い。次に、「安立大乘の願」。人が邪道に迷っていたら、悉く悟りの大道に安住せしめ、菩薩道、自利利他の大乗道に導くという願い。次に「諸病悉除の願」。人が病苦や貧苦に悩んでいたならばこれらの苦を除き去り、身も心も安楽になし、無上の菩提を証得せしめようという願い。さらに、「苦悩解脱の願」。思いがけない災難に遭遇しても、福德威神力をもって、一切の憂いや苦悩から解脱せしめようという願い。…等である。薬師様は、これら十二の大願を菩薩の時に成就され、東方浄瑠璃世界の主として、廣大無辺の功德を垂れておられるといわれている。

さて、話題を薬師如来の脇侍である日光・月光両菩薩と十二神将に移そう。日光菩薩は薬師如来の左脇(薬師如来に向かって右側)に侍し、月光菩薩は薬師如来の右脇(薬師如来に向かって左側)に侍し、それぞれ役割をもっている。すなわち、日光菩薩は昼を守護し、月光菩薩は夜を守護しているのである。

十二神将は、それぞれ十二支を動物の形で表したものを載せており、十二支の生まれ年の人々の守護神となっている。また、それぞれの神将には、一日 24 時間を十二支で割った 2 時間ずつを「子の時」から「亥の時」までに当てはめ、それぞれの時を守護する役目がある。「子の時(刻)」とは、午前0時を中心とした前後 2 時間、つまり 23 時から午前 1 時までをいい、「丑の時(刻)」とは、午前 1 時から午前 3 時までをいう。

このようなことを理解した上で薬師様に掌を合わせると、また、違った趣が生まれそうである。

(以下4ページへ続く)



大地に刻まれた
歴史探勝 10

馬絹古墳の巨大な横穴式石室と構築技法の伝来を探る

村田 文夫(日本考古学協会会員)

被葬者が眠る高塚古墳の石室は、きわめて高度な建築技法が駆使されています。馬絹古墳の巨大な横穴式石室はその最たるもの。今回は、その技術的な背景を探ってみましょう。

横穴式石室を初見した樋口清之先生は、特徴を一言で看破された

馬絹古墳は宮前区馬絹に位置し、昭和 46 年(1971)に発掘されました。被葬者が眠る横穴式石室の内部に入って驚いたのは、石室規模の巨大さ。これまで這いつくばって横穴式石室や横穴墓に出入りしていたので、その驚きは格別でした。

すぐに保存問題が県・市の行政間で話題になりました。調査を指導された樋口清之先生(国学院大学教授)は、丹精に細工した切石で壁面を整然と積み上げ、その切石と切石の接合面に白色の漆喰(その後の分析で、白色粘土と判明。視覚的には判別できない)が確認できたことから、朝鮮半島との関連を看破されました(写真 1)。これが二つ目の驚きでした。県・市と開発事業者間の協議はスムーズにすすみ、神奈川県指定史跡として公園内に保存されました。

馬絹古墳の墳丘・石室規模などを整理すると、墳丘径は約 33m、墳丘高は約 6m。墓主と一族が眠る横穴式石室は、最奥部の「玄室」→「前室」→「前々室」の三室に分かれる複式構造で、全長は 9.6m。最奥部の墓室規模は、床面(底面)サイズで縦 3m×横 3m の正方形。高さも 3m。したがって石室は、「3」の数値を基準に設計されていました(第 1 図)。一方、規模大なる石室でしたが、副葬品は空っぽで、木棺に打ち付けた長めな鉄釘のみ。前室の側面と玄門(出入口)の一部が壊されていたので、副葬品類はここから先に失敬されていました。

普通、古墳の築造時期は外部に樹立された埴輪とか、石室内部に遺された副葬品等を総合させて究明しますが、馬絹古墳には手掛かりとなる遺物類が皆無。さあて困った。そこで浮かんできたのが、最奥部の石室(玄室)の設計が、既述したように「3m」であったこと。普通、古墳・寺院跡などの構造物は、精緻な設計図をもとに現場工事が進みます。浮上したのが、基準尺の 3m は、唐尺(1 尺=約 30 センチ)でピタリ。唐尺がわが国で普及したのは、通説では、西暦で 650 年以降ですから、古墳の築造は、古墳時代の終末期に相当していました。

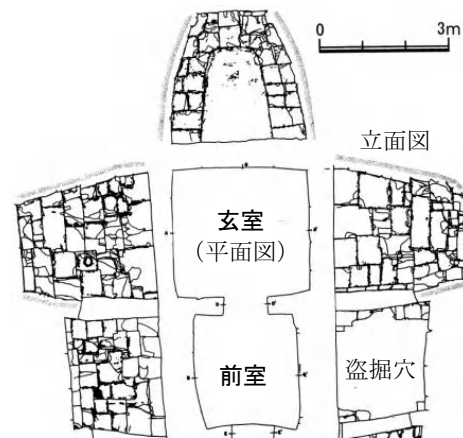
もう一つの大きな特徴は、最奥部の石室(玄室)の設計が、実測図のように天井部に向かい徐々に狭まる穹窿頂持ち送り玄室であること(「穹」は天空、「穹窿」は高く弓なりに曲がる)。この類の横穴式石室は、近畿地方の古墳に多く、特に近江国(滋賀県)滋賀郡の渡来系氏族が集団で居住した地域に多く分布しています。これらの特徴から、馬絹古墳が古代東国に築造された単なる一古墳ではなく、築造された背景に相当複雑な事情が浮かんできます。

石積み集団、穴太(あのを)衆の関与があったのでしょうか

横穴式石室の玄室が、特徴的な穹窿頂持ち送り玄室の好例は、琵琶湖西岸に集中にしていますが、その地域は、石積みの持ち送り技法で知られる穴太衆石積み集団の集住地としても知られています。彼らは積み上げる石の「目」を読みながら、石材を積み上げていく優れた技術者集団でした。

閑話休題一。今年、直木賞を受賞した今村翔吾の小説『塞王の楯』(集英社)は、落城によって肉親を喪った石工・匡介と、鉄砲職人との攻防を描いた「矛」と「盾」の戦い。そして石工の匡介は、穴太石積衆の後裔という設定でした。穴太石積衆の間では、築城後、百年で崩れたら素人仕事、三百年で崩れたら恥、五百年でようやく一人前と言われていました。

では、馬絹古墳の「寿命」は一。昭和 46 年の発掘時点で築造から約 1300 年を経過。盗掘による破壊部分を除けば最大 3m も積み上げた大形な玄室内は、写真 1 のように完璧に築造当時のまま。馬絹古墳の秀逸な石室積みに、穴太衆の関りがあったと真剣に考えています。



第 1 図 馬絹古墳実測図(部分)



写真 1 同上古墳石室(白色・白色粘土)

シリーズ

教育の歩み 第3部

日本の学校と教育(29)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

現代教育の困難

学習意欲を高めるために成績競争を利用した場合の弱点は、試験の成績が伸びない児童・生徒をスポイルしてしまうことにあります。閉鎖的な学級集団内での成績競争は、まさにゼロサムゲームに他ならないからです。午前9時頃から午後3時過ぎまで、約6時間に及ぶ学級生活は、児童・生徒を成績競争に駆り立てる仕掛けに事欠きません。この競争の勝者、成績優秀者は学習意欲を保ちますが、成績不振者は学びの意欲を削がれて、やる気を失っていくこととなります。こうした教育の世界のあり方は、果たして正しいと言えるのでしょうか？

外にも問題はあります。学級内、或いは学校内の成績競争に動機づけられた学習意欲は、学級意識が希薄化し、競争相手が見えにくくなってしまいう大学生活になると、低下してゆきます。小学校から高等学校まで、固定化された学級集団の中で育まれた競争意識は、固定化された学級がなくなり、選択科目による流動的な学級制が日常化する大学生活に入ると、学生たちは競争相手を見つけることができず、方向感を無くして立ち往生してしまうのです。この現実、受験競争をかいぐり、〇〇大学や△△大学に入学することをモチベーションに、受験勉強に勤しんできた若者たちは、次なる目標を定めることができず、次第に学びの意欲を失ってゆくのです。大学に進学したけれど、何を勉強したいのか、何を目標としたら良いのか、皆目わからずに立ち往生してしまう学生が、こうして大量に産み出されるのです。

学びの本質に根ざした学習意欲を、児童・生徒の内面に呼び覚ますことを怠り、立身出世主義の名残を色濃く残した成績競争に追い立ててきた、日本の教育システムの伝統が、将来の目標を喪失した若者の大群を産み出してしまっているのです。チャレンジ精神に燃えた若者が大きく減っていると、嘆く声があちこちから聞こえる事実が、この状況を物語っているように思えます。

こうした傾向は、1985(昭和60)年発売のゲームソフト「スーパーマリオブラザーズ」の大ヒットで、子どもたちや若者を夢中にさせたファミコンの普及と、デジタル時代の到来によって倍加されました。ファミコンに始まり、パソコンの普及、携帯電話からスマホへと連なるデジタル化の急進展は、ゼロとイチしかない二進法的思考を是とし、白と黒の間にある様々な灰色の世界に思いを馳すことのできない若者を大量に創り出しました。その結果、学校での学びを疎かにしても、SNSの世界に籠れば、仲間はいくらでも見



任天堂、初代ファミコン

つけることができるため、正確な日本語を覚えようとも、綴ろうともしない若者が、大量に産み出され、年を経るようになったのです。

この状況を憂えた国立情報学研究所の新井紀子教授は、2018年に『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』を著し、中高生や大学生の国語力(文章の読解力、表現力、作文力など)が大きく落ち、当該年齢の生徒たちが、十分に読みこなせるように作られている教科書すら、満身に読みこなせない生徒や学生が多数に上っている事実を指摘し、警鐘を鳴らしたのです。この書物は話題を呼び、ベストセラーとなった結果、遅まきながら国語教育の改善が図られるようになったのですが、最近では新聞記事にも誤字や言葉の誤用が目につき、TV局のアナウンサーの原稿の読み違いや不正確な言葉遣いが目立つようになってきました。背景には新人教育を担当する中堅の記者やアナウンサーの教育力の衰えがあるわけですから、ことは深刻です。

通訳や翻訳を担当する友人たちに苦労話を伺うと、「どの国にも適当な日本語の表現が見つからない言葉や表現が必ずあるので苦労する」と異口同音に語ってくれます。生活様式も違い、感情表現や宗教観といった独特の精神文化を表わす言葉は、異なる精神文化圏の国の言葉に置き換えることは不可能に近いのです。言葉の背景には夫々の国民が培った精神生活があります。言葉は文化そのものなのです。自国語を放棄し他言語を国語とした国家はやがて存在価値を失うのです。(続く)



『AI vs.教科書が読めない子どもたち』表紙

(1ページから続く) ところで、日本での薬師信仰は、どのような展開を辿ったのであろうか。古くはまづ奈良時代、法隆寺の薬師如来像である。その光背銘には、用明天皇がご自身の病氣平癒を祈願されて造立を始められたが、崩御され、亡き天皇の遺志を継いで、推古天皇と聖徳太子がこれを完成された旨が書かれている。また、奈良薬師寺の薬師三尊像は天武天皇が皇后の病氣平癒のため造立を始められ、全快された皇后(持統天皇)が、亡くなられた天武天皇に代わってこれを完成されたとのことである。さらに聖武天皇は諸国に国分寺を建立されたが、それらのご本尊は薬師如来となっている。

平安時代になると、最澄が比叡山に延暦寺を建立し、根本中堂に自ら薬師像を刻して本尊と成したといわれている。高野山の金堂、京都の東寺、大和の室生寺はそれぞれ薬師如来を本尊としてお祀りしているのである。

このように奈良、平安の昔から今日に至るまで、全国各地に薬師如来は大事にされ、今もなお、薬師信仰の灯は保ち続けられているのである。

さて、修廣寺の薬師瑠璃光如来の開扉法要が、今年(令和4年)の10月22日に举行されることになっている。寅年の秋に開扉されるのが習わしなので、「寅薬師」と呼ばれているのである。当山の寅薬師で私が体験しているのは、昭和49年、昭和61年、平成10年、平成22年であり、今回、令和4年が5回目となる。

「寅薬師」では、薬師様の御指に五色の糸が結ばれ、糸の先が本堂奥の鉤に結ばれ、そこから五色の紐となり本堂中央の天井を通して正面入口上部の鉤に結ばれ、そこから五色の布となって、境内中央に建てられた太い寅薬師供養塔に結ばれる。この布の近くで掌を合わせる方は、薬師様と握手をしたこととなり、大変御利益があるとされている。

実はこの寅薬師に合わせて、当山27世住職の「^{しんざんけつせい}晋山結制」という儀式も併修されることになっている。これは新たな住職として就任することをお披露目する儀式であり、住職として一回限り行うべき古式豊かな曹洞宗の伝統行事である。当日(10月22日)は朝、7時半頃、^{あんげしよ}安下処(注1)をお願いしている長瀬和徳家を、行列(いわゆる稚児行列であり、新住職を中心に5名の侍者が並び、お役の世話人さんが行列をリードする)が出発し、8時少し前に山門(仁王門)前に到着し、そこから晋山結制の儀式が始まるのである。この行列の進行と同時に、本堂では^{たいとうしき}退董式(26世住職の引退式)が行われることになっている。さらに、前日の21日には客殿庫裡落慶法要と翌日の晋山結制の関連行事(首座入寺式、本則配役行茶)も組み込まれる。

また、一連の行事の事前イベントと事後イベントも予定されているので、ご関心のある方はポスターやチラシ、または、修廣寺のホームページをご覧くださいければ幸いである。

(注1)安下処とは、これから一山の住職になる者が旅装を解いて寺へ入るための準備をし、体調を整えさせて頂く場所のこと。長瀬家では修廣寺の代々の住職のために、安下処を提供され、お世話を下さっている。出発前には御当家の先祖代々の供養を行うのも習わしである。

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:10月1・8・15・29日(毎土曜日) 11月6・13・20日(毎日曜日)
 ◎開館時間:午前10時～午後3時(緊急事態宣言等発令の場合は休館となります。セミナーも再々延期です。)

第84回 カルチャーセミナー **秩父流平氏 畠山重忠と稲毛重成**
 ~その鉄並びに杉山神社とのかかわりを追う~

東国の鍛冶棟梁と言われる畠山重忠と稲毛重成。一方、杉山神社の分布は秩父流平氏の勢力範囲と驚くほど重なっており、鉄とのかかわりから杉山神社解明の新たな糸口としたい。

日時:10月29日(土) 13時30分～15時30分 会場:柿生中学校視聴覚室(2F)
 講師:岡田誠治氏(麻生歴史の会副委員長) 先着:30名(マスク着用お願いします)

特別企画展予告 「ポスターで辿る昭和の映画」 期間:10月8日(土)～1月22日(日)

【訂正】第171号で友の会会員を紹介させていただきましたが、その際、会員名を誤って表示しておりました。お詫びして訂正させていただきます。

地区	正	誤
上麻生	(株)飛鳥典礼	(株)飛鳥典礼
岡上	(有)ステップ・オン	(有)ステップオン